

自動車安全特別会計への約6,100億円繰り戻し問題 「自賠制度を考える会」が麻生財務大臣に要望



内山田会議所会長も額賀自動車議連会長に陳情

麻生財務大臣を訪問した「考える会」メンバー。左から高倉自動車総連会長、矢代JAF会長、麻生財務大臣、福田日次教授、桑山家族の会代表、秋田会議所保険委員長

自 賠償保険料を積み立てた約6,100億円が一般会計に繰り入れられたままになっている問題解決に向け、国土交通省と財務省の折衝が大詰めを迎えている中、当会議所の内山田竹志会長が11月10日、自動車議連会長の額賀福志郎衆議院議員の事務所を訪問し、自動車安全特別会計に繰り戻されるよう要望した。また、当会議所保険委員会の秋田進委員長（日本通運取締役常務執行役員）もメンバーに名を連ねている「自動車損害賠償保障制度を考える会」でも陳情活動を展開、同13日に麻生太郎財務大臣に面会し平成30年度末までに返済されるよう訴えた。

自動車ユーザーの支払った自賠責保険の運用益は、交通事故被害者救済などの原資として自動車安全特別会計に計上されているが、そのうち約6,100億円が財政難を理由に一般会計に繰り入れられたままとなっている。当会議所ではこれまで約6,100億円を特会に繰り戻すよう、政府に働き掛けてきたが、この14年間、一切返済されることはなかった。国交、財務両省の覚書によると、平成30年度末に4度目の繰り戻し期限を迎えることになっている。

この問題に解決に向け、有識者や被害者団体などが9月に「自動車損害賠償保障制度を考える会」を結成。当会議所の秋田保険委員長もメンバーの一人となっている。本「考える会」でもこれまで政府や国会議員へ繰り戻しを働き掛けてきたが、11月13日、



額賀自動車議連会長（左）に繰り戻しを要望する内山田会議所会長

結成呼びかけ人でもあるメンバー5人が麻生財務大臣に面会し、「交通事故被害者救済に必須の原資であり、財務、国土交通両大臣間の覚書通り、平成30年度末までに返済していただくよう、来年度の予算措置をしていただきたい」と訴えた。

◇麻生財務大臣を訪問した「考える会」メンバー5人は次の通り。

- 福田弥夫・日本大学危機管理学部長（「考える会」座長）
- 桑山雄次・全国遷延性意識障害者・家族の会代表
- 秋田進・日本自動車会議所保険委員会委員長（日本通運取締役常務執行役員）
- 矢代隆義・日本自動車連盟（JAF）会長
- 高倉明・全日本自動車産業労働組合総連合会（自動車総連）会長